



生活クラブ風車



夢風News

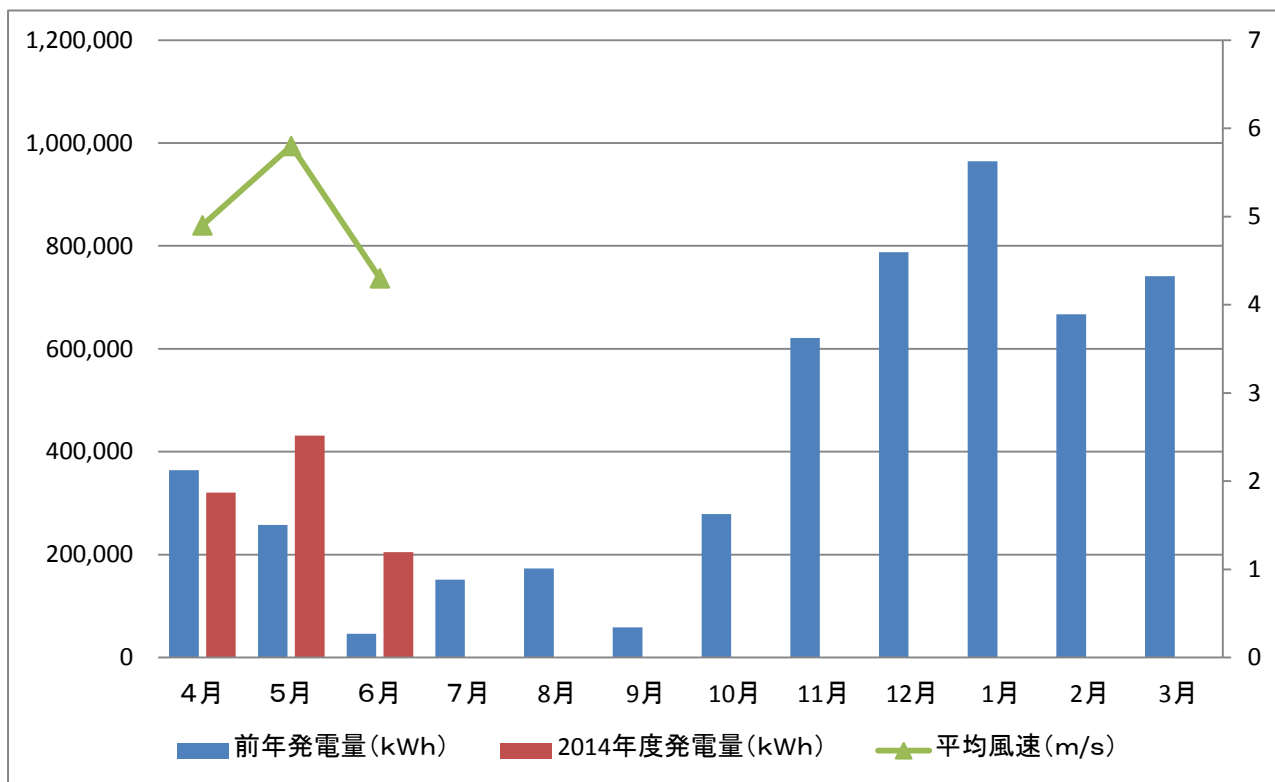
Vol.25

●発行 2014. 7. 15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩（代表理事） ●編集責任者 鈴木伸予

■ 2014年度 発電実績 ■

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4月	320,524 【88.0%】	4.9	22.4
5月	431,507 【167.3%】	5.8	29.1
6月	201,904 【440.5%】	4.3	14.3



- 6月より風況はガラッと変わり風の弱い季節に入りました。
夢風の発電量は、計画を若干上回り計画比 108%となっています。
- 4~6月（第1四半期）の発電計画 88万 kWh に対し実績は 95.6万 kWh で、計画比 108.5%で進捗しています。

■にかほ市と生活クラブ・グリーンファンド秋田との連携推進協議会

2014 年度総会 報告

2014 年 7 月 5 日（土）に連携推進協議会の 2014 年度総会をにかほ市で開催しました。2013 年度活動報告、2014 年度活動方針及び予算、役員について承認されました。2014 年度は、交流事業の実施、特産品や農水産物の取り組みの推進、自然エネルギー開発における連携の検討などをすすめます。交流事業については、グリーンファンド秋田（生活クラブ風車）の 2014 年度売上利益の一部を普及啓発費（交通費補助）として活用します。また、特産品の取り組みでは、夢風ブランド開発生産者連絡会の立ち上げ、生活クラブ千葉でデポーにかほフェアの開催や生活クラブ東京でセット取組を計画、生活クラブ埼玉 40 周年記念まつりへの対応などを決定しました。

総会終了後、第 1 回幹事会を開催し、共同代表として須田正彦副市長と半澤彰浩生活クラブ神奈川専務理事が選出されました。また、監事として齋藤均にかほ市総務部長と岡田一弘生活クラブ神奈川常勤理事が選出されました。



■連携推進協議会主催 生活クラブ学習会の開催報告



にかほ市と生活クラブの連携をすすめる上で、まずはお互いを知ることから始めましょうと、7 月 5 日（土）に、にかほ市で生活クラブの学習会を開催しました。にかほ市の職員の方、生産者の方など 30 人ほどの参加がありました。

初めに、生活クラブ埼玉の清水泉理事長より、生活クラブの活動とにかほ市との地域間連携のとりくみについての学習。生活クラブは自分たちの暮らしに必要なモノやサービスを自分たちで出資・利用・運営し、自分たちで手にする協同組合です。1965 年に東京の世田谷で誕生し、今は北海道から兵庫県まで 35 万人の組合員がいます。共同購入を通じて暮らしと社会の転換をめざす、おおぜいの組合員の活動は世界的にも評価されています。また、風車を縁としたにかほ市との連携でエネルギーの産地提携を目指したいと事と、この間の取り組みを報告しました。

次に、生活クラブ千葉の木村庸子理事長より生活クラブの消費材の考え方についての学習。素性確かなものを適正価格で、疑わしきは使用せずの原則、情報公開など生活クラブの共同購入の原則について

説明しました。さらに、食品添加物の問題や、遺伝子組み換え作物の問題と生活クラブの考え方や取組について報告しました。

会場からは、生活クラブが食品の添加物や遺伝子組み換え食品に厳しく取り組んでいることがわかった、風車の建設地にかほ市を選んだ理由は？にかほ市との連携の今後の展望やひろがりについては？加工品を扱う時に数量が少なすぎたり多すぎたりした時の対応は？などの質問や意見が出されました。今後の連携については、市役所だけでなく、生産者の方々にも広げ、少しずつ産地提携をすすめていきたいという事です。

今回はにかほ市での学習会でしたが、10月には、にかほ市の方々が生活クラブ千葉に来られて生活クラブのお店や福祉施設を見て、組合員と交流する学習企画を行います。

■夢風ブランド開發生産者連絡会総会 報告

生活クラブ風車「夢風」の建設を縁に、生活クラブでにかほ市の特産品の取り組みを少しずつすすめてきました。その取組の中から、夢風ブランドのオリジナル消費材の開発に向けた検討をすすめる生産者の方たちの連絡会の立ち上げの準備をすすめてきました。夢風ブランドは、にかほ市が自然エネルギーを応援し、生活クラブがにかほ市を応援するというような、にかほ市と生活クラブの共同宣言に基づいた地域間連携を表現するオリジナル消費材を目指します。

そして、7月5日（土）、夢風ブランド開發生産者連絡会総会を開催しました。総会では、会の規約、会員、2014年度活動方針及び予算を承認しました。会員はにかほ市の意志ある生産者および団体、にかほ市として、三浦米太郎商店、でんべいかれい生産グループ、伊藤製麺所、佐藤勘六商店、(株)飛良泉本舗、白川湖月堂、幸月堂菓子舗、四つ葉ネットワーク、道の駅ねむの丘、芹田自治会、芹田営農組合、にかほ市、グリーンファンド秋田が承認されました。会長には、三浦米太郎商店の三浦悦朗代表取締役が選出されました。

2014年度は、千葉デポーでのフェアで扱う物の提案や東京単協の特産品セット企画の提案、生活クラブのまつりへの参加などを検討しすすめていきます。



三浦悦朗 夢風ブランド開發生産者連絡会会長（後列右から6人目）

にかほの風だより 生活クラブのメンバーで生産者を訪問しました



翌日、佐藤勘六商店の佐藤玲さんに、大竹集落のイチジク畑と加工所を案内して頂きました。

イチジクを特産品として広げていくために、秋田県と一緒に栽培方法などの検討をすすめているとの事です。イチジクにとってカミキリ虫は木に穴をあけてしまう害虫で、一時、大量発生により壊滅的な被害を受けたこともあるとの事です。都会では子供たちに喜ばれるカミキリ虫がイチジクの天敵だと初めて知りました。

畑で熟したイチジクをそのまま佐藤勘六商店さんで甘露煮にします。イチジクは鮮度が落ちやすく、地元で加工することで新鮮なおいしい甘露煮になります。

秋に加工した甘露煮を、冷凍庫で保存しておいたイチジクの果汁で割り、味を調節して、パックに詰めて出荷しているとの事です。



佐藤玲さん

三浦米太郎商店の加工所を三浦悦朗さんに案内して頂きました。三浦さんの加工所は平沢漁港の目の前で、水揚げされたハタハタをすぐに加工できます。

この日は、いぶりハタハタの骨取を丁寧な手作業でされていました。三浦米太郎商店は三浦さんで13代目と言います。ハタハタを麴と塩と酢で漬け込んだ伝統のハタハタ寿しを美味しく試食させて頂きました。普段は捨ててしまうという皮や骨の部分が美味しいといただいて帰るメンバーもいました。



三浦さんと生活クラブメンバー（後ろは平沢漁港）

